国語1　米作りについて解説する文章を書く

1　川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、**【川村さんの考え】**と川村さんが選んだ**【カード①】**から**【カード⑤】**です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【川村さんの考え】

雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。

川村さん

【カード①】

6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法　週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん　7月1日～15日

【カード③】

7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日
［農家の石山さんのお話］
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日
［学校でできる解決方法］
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

一　川村さんは、カードを選んだ際に、**【カード②】**の――部と、**【カード③】**の……部に関係があることに気づきました。その説明として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　**【カード②】**の――部は部分、**【カード③】**の……部は全体について書かれている。
2　**【カード②】**の――部は結果、**【カード③】**の……部は原因について書かれている。
3　**【カード②】**の――部は目標、**【カード③】**の……部は計画について書かれている。
4　**【カード②】**の――部は考え、**【カード③】**の……部は事例について書かれている。

二　川村さんは、選んだカードをもとに、次の**【川村さんの文章】**の［　　］に学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしています。**あなたが川村さんなら、**［　　］に入る内容を**どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。**

【川村さんの文章】

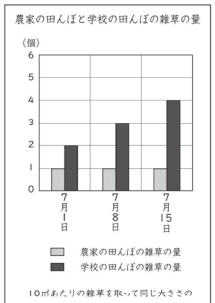
学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウさかんは7月1日から15日までです。

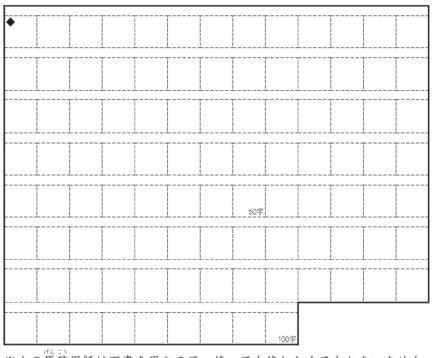
右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

［　　］



このようなことに取り組み、9月の下じゅんにお米をしゅうかくすることができました。

〈条件〉
- **学校の米作りの問題点については、【川村さんの文章】のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。**
- **問題点の解決方法については、【カード⑤】をもとにして書くこと。**
- **六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。**



※上の原稿（げんこう）用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

三　川村さんは、**【川村さんの文章】**を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた――部**ア**、**イ**、**ウ**を漢字に書き直すことにしました。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1)　――部**ア**、**ウ**を漢字でていねいに書きましょう。

雑草取りを続けたのですが、ア<u>いがい</u>に雑草が生えてきて、とてもこまりました。

ウ<u>きかん</u>は7月1日から15日までです。

(2)　――部**イ**を書き直したものとして適切なものを、次の**1**から**3**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

雑草の量について、農家の田んぼとイ<u>くらべて</u>みました。

1　比らべて

2　比べて

3　比て

四　川村さんは学習をふり返り、**【川村さんの文章】**の特徴をまとめています。その説明として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　野菜作りなどとくらべた米作りのよさをすいせんしている。

2　調査方法についてよりよい手順を提案している。

3　調査で明らかになったことを整理して説明している。

4　予想される反論に対する自分の考えを主張している。

出題の趣旨

情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができるかどうかをみる。

自分の考えが伝わるように書く際には、図表やグラフなどを用いるなどして、書き表し方を工夫することが大切である。図表やグラフなどを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果などを記述する際には、図表やグラフを用いることで、自分の考えを深めたり、相手にとってよく理解できるものにしたりすることが大切である。

本問では、学校の田んぼで取り組んだ米作りについての文章を書く場面を設定した。総合的な学習の時間との関連を図っている。川村さんは、自分の考えが伝わるように、記録していたカードから必要なカードを選んだり、カードの情報とグラフを用いて、学校の米作りの問題点とその解決方法について文章を書いたりしている。ここでは、川村さんの立場を通して、グラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが求められる。また、様々な情報の中から原因と結果の関係を見いだし、結び付けて捉えることや、読みやすさを考えて漢字を正しく書くこと、文章の種類とその特徴を理解することも求められる。

なお、本調査で初めて取り上げる内容に関する設問は、以下のとおりである。

○　設問**一**では、第５学年及び第６学年の〔知識及び技能〕の⑵情報の扱い方に関する事項「ア　原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。」を取り上げている。この指導事項は、平成29年告示の小学校学習指導要領で新設されたものであり、本調査で取り上げることも初めてである。

○　設問**四**では、〔知識及び技能〕の⑴言葉の特徴や使い方に関する事項の「文や文章」に関する指導事項を取り上げている。この指導事項を本調査で取り上げることは初めてである。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第５学年及び第６学年〕　思考力、判断力、表現力等　B　書くこと

ア　事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。

設問一

趣旨

原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第５学年及び第６学年〕　知識及び技能

⑵　情報の扱い方に関する事項

ア　原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
1	一	1	**1**　と解答しているもの	12.1	
		2	**2**　と解答しているもの	64.8	◎
		3	**3**　と解答しているもの	6.9	
		4	**4**　と解答しているもの	14.0	
		99	上記以外の解答	0.4	
		0	無解答	1.8	

２．分析結果と課題

○　本問の正答率は64.8%であった。原因と結果など情報と情報との関係について理解することに課題があると考えられる。

○　解答類型１は、**【カード②】**の下線部が「部分」、**【カード③】**の下線部が「全体」について書かれていると捉えてしまい、解答類型４は、**【カード②】**の下線部が「考え」、**【カード③】**の下線部が「事例」について書かれていると捉えてしまい、いずれも「原因」と「結果」という関係を結び付けて捉えることができなかったと考えられる。これらの中には、情報と情報との関係には、考えと理由や事例、全体と中心、原因と結果など様々な関係があることを理解しておらず、「考え」と「事例」の関係など自分がよく知っている内容を選択してしまった児童もいたと考えられる。

３．学習指導に当たって

原因と結果など情報と情報との関係について理解する

○　情報と情報との関係を理解するためには、様々な情報の中から原因と結果などの関係を見いだし、結び付けて捉えることができるようにすることが重要である。例えば、ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり、明らかにしたりすることが大切である。

本設問では、川村さんは、学校の米作りの問題点とその解決方法を伝えるために、カードの中から必要な情報を選び出している。選んだ情報が「雑草の量に対して雑草取りが追いついていない」という原因と、「雑草の量が増えてきた」という結果の関係になっていることを捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、第５学年及び第６学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｂ書くこと」の⑴「イ　筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。」などとの関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

ここでは、情報と情報との関係を捉えて整理することができるようにする指導事例を、**「授業アイディア例」**の**情報を整理する場面**に示す。

設問二

趣旨

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第５学年及び第６学年〕　思考力、判断力、表現力等　B　書くこと

エ　引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
1	二	（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①　学校の米作りの問題点について、以下のことを書いている。 a　**【川村さんの文章】**のグラフから分かること b　**【カード④】**から分かること ②　問題点の解決方法について、**【カード⑤】**をもとにして書いている。 ③　60字以上、100字以内で書いている。 （正答例） ・　グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。（100字）			
		1	条件①a、bの両方と、条件②、③を満たしているもの	26.8	◎
		2	条件①a、bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.0	
		3	条件①a、bの両方は満たしているが、条件②は満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	2.9	
		4	条件①a、②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	18.4	
		5	条件①b、②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	19.1	
		6	条件①aは満たしているが、条件①b、②は満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.8	
		7	条件①bは満たしているが、条件①a、②は満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	2.5	
		8	条件②は満たしているが、条件①a、bは共に満たしていないもの ＊条件③を満たしているかどうかは不問とする。	7.7	
		99	上記以外の解答	7.7	
		0	無解答	7.0	

２．分析結果と課題

○　本問の正答率は26.8％であった。**【カード④】**から分かる問題点と、**【カード⑤】**を基にした解決方法は書いているが、**【川村さんの文章】**のグラフから分かる問題点は書いていない解答類型５の反応率が19.1％と高いことからも、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられる。

○　解答類型４と解答類型５の反応率の合計は、37.5％であり、他の解答類型に比べて、解答類型の反応率が高かった。解答類型４と解答類型５は、学校の米作りの問題点について、**【川村さんの文章】**のグラフから分かることか、**【カード④】**から分かることかのいずれかしか書いていないものである。これらの中には、グラフから分かること（「学校の田んぼの雑草の量が、増えていることや農家に比べて多いこと」）と、**【カード④】**から分かること（「雑草が多いと栄養をとられて米の収穫が減ることや稲が病気になること」）を関係付けて捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

○　解答類型４の具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
- 農家の田んぼに比べて、学校の田んぼの雑草は多く、しかも増え続けるという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数を増やしたり人数を増やしたりすることにしました。(80字)
- グラフから分かるように、学校の田んぼの雑草の量は２週間で倍に増えています。農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしています。そこで、雑草取りの回数や人数を増やしました。(87字)
- グラフを見て分かるように、学校の田んぼの雑草の量は増え続けています。雑草の量に対して雑草取りが追いついていないという問題点がありました。だから、解決方法として、雑草取りの回数と人数を増やしました。(98字)

このように解答した児童は、**【川村さんの文章】**のグラフから分かる学校の米作りの問題点と、**【カード⑤】**を基にした問題点の解決方法を書いている。しかし、**【カード④】**から分かる学校の米作りの問題点は書いていない。この中には、**【カード④】**から分かる学校の米作りの問題点を取り上げなかった児童がいたと考えられる。また、**【カード④】**から分かる学校の米作りの問題点を取り上げようとしたが適切に取り上げることができなかった児童もいたと考えられる。**【カード④】**ではなく、**【カード③】**から分かることを書いた児童もいたと考えられる。

○　解答類型５の具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
- 学校の米作りの問題点は、雑草に栄養をとられて米のしゅうかくが減ってしまうことでした。そこで、雑草取りの回数も人数も増やすことにしました。(68字)
- グラフから分かるように、農家も雑草が生えています。このままだと雑草に栄養をとられて米のしゅうかくが減るかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草を取る回数と人数を増やしました。(92字)
- 学校の田んぼに雑草が生えてきて、雑草が多いといねが病気になるという問題点がありました。だから、雑草を取る回数と人数を増やすことにしました。(69字)

このように解答した児童は、**【カード④】**から分かる学校の米作りの問題点と、**【カード⑤】**を基にした問題点の解決方法を書いている。しかし、**【川村さんの文章】**のグラフから分かる学校の米作りの問題点は書いていない。この中には、**【川村さんの文章】**のグラフから分かる学校の米作りの問題点を取り上げなかった児童がいたと考えられる。また、**【川村さんの文章】**のグラフから分かる学校の米作りの問題点を取り上げようとしたが適切に取り上げることができなかった児童もいたと考えられる。**【川村さんの文章】**のグラフではなく、**【カード①】**から分かることを書いた児童もいたと考えられる。

３．学習指導に当たって

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

○　図表やグラフなどを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果などの事実の記述は、このような図表やグラフを用いる方が自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものとなる。

本設問では、川村さんは、選んだカードを基に、グラフを示しながら学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしている。グラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが求められる。

学習指導に当たっては、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連して指導することも考えられる。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直していくことが大切である。児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することも考えられる。

なお、引用した図表やグラフの出典については必ず明記するとともに、引用部分が適切な量になるようにする必要がある。図表を用いる場合には、本文に「図１は、～」、「表１は、～」といった表現を用いて本文との関連を示すことを指導することも考えられる。

ここでは、図表やグラフなどを用いるなどして書き表し方を工夫する指導事例を、**「授業アイディア例」**の**記述する場面**に示す。

設問三(1)

趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第５学年及び第６学年〕　知識及び技能

⑴　言葉の特徴や使い方に関する事項

エ　第５学年及び第６学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

１．解答類型と反応率

問題番号			解答類型	反応率(%)	正答
1	三(1)ア	1	「意外」と解答しているもの	53.0	◎
		2	「意」と解答しているが、「外」と解答していないもの	1.2	
		3	「意」と解答していないが、「外」と解答しているもの	35.6	
		99	上記以外の解答	5.5	
		0	無解答	4.7	
	三(1)ウ	1	「期間」と解答しているもの	72.8	◎
		2	「期」と解答しているが、「間」と解答していないもの	4.3	
		3	「期」と解答していないが、「間」と解答しているもの	9.0	
		99	上記以外の解答	7.3	
		0	無解答	6.6	

２．分析結果と課題

○　三(1)アの正答率は53.0％であった。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題があると考えられる。

○　三(1)アの解答類型２の反応率は1.2％、解答類型３の反応率は35.6％である。「いがい」の「がい」を「外」として文の中で正しく使うことはできているが、「意」を文の中で正しく使うことができていないと考えられる。同じ読み方をする「以」と解答している児童が見られた。このことから、同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられる。この中には、「意外」や「以外」の意味を理解することができていない児童もいたと考えられる。

○　三(1)ウの解答類型３の反応率は9.0％である。「きかん」の「き」を「期」として文の中で正しく使うことができていないと考えられる。同じ読み方をする「機」や「気」と解答している児童が見られた。

３．学習指導に当たって

同じ読み方をする漢字を注意して使う

○　漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導することが重要である。

学習指導に当たっては、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。第１学年及び第２学年では、文や文章の中で漢字を読むことや、文脈の中での意味と結び付けていくようにすることが大切である。第３学年及び第４学年は、漢字による熟語などの語句の使用が増えてくる時期であるため、漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べる活動を積極的に取り入れ、習慣として定着するようにすることが大切である。第５学年及び第６学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、本設問にあるような「意外」、「以外」などの同音異義語に注意し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。

漢字の学習指導に当たっては、以下の資料も参考になる。

（参照）

①「平成28年度【小学校】報告書」p. 27
https://www.nier.go.jp/16chousakekkahoukoku/report/data/16plang.pdf#page=31

②「平成29年度【小学校】報告書」pp. 48-50
https://www.nier.go.jp/17chousakekkahoukoku/report/data/17plang.pdf#page=52

③「平成30年度【小学校】報告書」p. 49
https://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/report/data/18plang.pdf#page=52

設問三(2)

趣旨

送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第５学年及び第６学年〕　知識及び技能

⑴　言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ　文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。

１．解答類型と反応率

問題番号			解答類型	反応率(%)	正答
1	三(2)イ	1	１　と解答しているもの	3.9	
		2	２　と解答しているもの	93.1	◎
		3	３　と解答しているもの	0.6	
		99	上記以外の解答	1.3	
		0	無解答	1.0	

２．分析結果と課題

○　解答類型１は、「くらべて」を送り仮名に注意して正しく使うことができていないと考えられる。

３．学習指導に当たって

送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく書く

○　文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けたり、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いたりすることができるようにすることが重要である。

学習指導に当たっては、送り仮名の付け方について、個々の具体的な語の送り仮名の付け方だけでなく、活用語尾を送るという送り仮名の原則的な付け方についても理解を促し、活用についての意識をもたせるように指導することが大切である。第５学年及び第６学年の〔知識及び技能〕の⑴オの「語句の構成」について理解することと関連を図り、指導の効果を高めることも考えられる。

設問四

趣旨

文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第５学年及び第６学年〕　知識及び技能

⑴　言葉の特徴や使い方に関する事項

カ　文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
1	四	1	1　と解答しているもの	3.0	
		2	2　と解答しているもの	11.7	
		3	3　と解答しているもの	79.9	◎
		4	4　と解答しているもの	3.3	
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	2.0	

２．分析結果と課題

○　解答類型２は、**【川村さんの文章】**が、調査方法を提案している文章であると捉えてしまい、調査で明らかになったことを整理して説明している文章であることを捉えることができなかったと考えられる。この中には、提案する文章や説明する文章などの種類とその特徴について理解することができていない児童がいたと考えられる。

３．学習指導に当たって

文章の種類とその特徴を理解する

○　文章には、紹介、提案、推薦、案内、解説、物語など、様々な種類がある。例えば、提案する文章は、その内容が実現可能で具体的なものであることが求められる。推薦する文章は、目的に応じて固有のよさを捉えるなどして、推薦する理由を明確に述べることが求められる。主張する文章は、自分の考えを異なる立場に向けて述べることが求められる。文章を読んだり書いたりするときには、こうした文章の種類とその特徴を理解しておくことが重要である。

本設問で取り上げられている文章は、学校の米作りの問題点とその解決方法を解説している文章である。ここでは、調査などを通して明らかになったことを整理して説明している文章であることを捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の様々な言語活動において、話や文章の種類とその特徴を意識させるようにすることが大切である。「書くこと」においては、文章を書き始める場面で、目的に応じて、書こうとする文章の種類と特徴を意識させたり、本設問で示したように、学習を振り返る場面で確認したりすることが考えられる。その際、必要に応じて、文章の種類と特徴を比較できるモデルとなる文章を提示することなどが効果的である。

ここでは、文章を書き始める場面で、文章の種類とその特徴を意識させる指導事例を、**「授業アイディア例」**の**書き始める場面**に示す。

本問全体の学習指導に当たって
授業アイディア例

「学校の米作りについて解説する文章を書こう」 ～情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりする～	〈実施対象学年〉 第５・６学年

情報と情報との関係を捉えて整理し、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られました。そこで、本授業アイディア例では、令和５年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語1に登場する川村さんの思考の流れに沿って、課題に応じた三つの場面を取り上げて、指導事例を紹介します。

◆書き始める場面：目的や意図に応じて、考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にする
◆情報を整理する場面：情報と情報との関係を捉えて整理する
◆記述する場面：図表やグラフを用いるなどして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

書き始める場面	目的や意図に応じて、考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にする

◇　川村さんの学級では、経験を基に、自分の考えが伝わるように文章を書くという学習を行っています。川村さんは、困っていることを友達に相談しながら、学習を進めています。

【目的の確認と内容の検討】

川村さん：５年生のときに、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて書こうかな。米作りに興味のある人に役立つ文章にするためには、どんなことを書こうかな。

中町さん：米作りの問題点を書くと役立ちそう。

向井さん：問題点だけでなく、解決方法も書くといいね。

水野さん：昨年、米作りをしたときに記録したカードから考えることもできそうだね。

昨年取り組んだときは、雑草がどんどん増えたけれど、解決することができた。記録してきたカードを基に、問題点と解決方法を書こうかな。どのように書いていけばよいのだろう。

雑草がどんどん増えて大変だったけれど、原因を調べて解決できたよね。そのことが、読む人にはっきり伝わるといいね。

読む人は、なぜ、雑草がどんどん増えたのか、知りたいと思うよ。

なるほど。なぜ雑草がどんどん増えたのか、そして、どんなことを調べて、どう解決したかを読む人にとって分かりやすいように書いていこう。

教師：川村さんが書くのは、調査などを通して明らかになったことを分かりやすく伝える文章ですね。書く目的と内容が明確になったので、米作りについて記録してきたカードを見返し、目的に沿って整理しましょう。

ポイント

文章を書き始める場面では、書く目的や内容を検討する時間を設定し、伝える相手を明確にしたり、経験を基に材料を集めたり、何をどのように書くかを考えたりできるように指導することが大切です。その際、〔知識及び技能〕の(1)カの「文章の種類とその特徴」の指導事項を関連付けて指導することも考えられます。学習の見通しをもつことで、文章全体の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりする主体的な学びにもつながります。

情報を整理する場面	情報と情報との関係を捉えて整理する

◇　川村さんは、米作りをする人の役に立つために、学校の米作りの問題点と解決方法について書くことにし、情報を整理することにしました。

川村さん

米作りのときに記録していたカードを振り返って、「雑草」を視点に、整理してみよう。

【川村さんが整理している様子①】

5月23日
・田植え体験をした。まっすぐになえを植えるのは、とても難しかった。
・たくさんのお米がしゅうかくできるように育てていきたい。

7月5日
・田んぼの水がかわいていたので、水を入れた。
・本で調べると、水の管理が大切だと書いてあったので気をつけたい。

7月20日
〔農家の石山さんのお話〕
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

雑草の量の調査（調査カード）
・7月1日
学校の田んぼ･･･バケツ2個分
農家の田んぼ･･･バケツ1個分
・7月8日
学校の田んぼ･･･バケツ3個分
農家の田んぼ･･･バケツ1個分
・7月15日
学校の田んぼ･･･バケツ4個分
農家の田んぼ･･･バケツ1個分

7月21日
〔学校でできる解決方法〕
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

8月10日
・いねのほが出そろい、ほ先に黄色いものがたくさん付いていた。
・黄色いものの正体について図かんなどで調べることにする。

6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法　週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん7月1日～15日

7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について、農家の石山さんの話を聞きに行く。

9月29日
・いねかり体験をした。
石山さんがいねのかり方を教えてくれた。
・たくさんお米をしゅうかくできてうれしかった。
しゅうかく祭でおにぎりにして食べるのが楽しみだ。

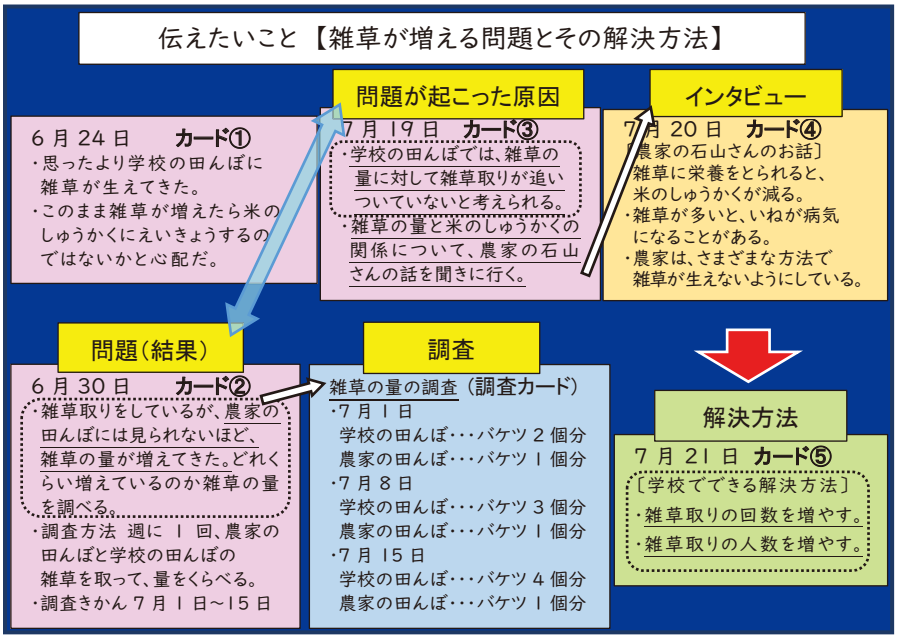
どのカードが使えるかな。まず、「雑草」というキーワードに線を引いて関係があるカードだけを選んでみよう。

9月29日のカードは、「いねかり」のことだから、取り上げる必要はないな。

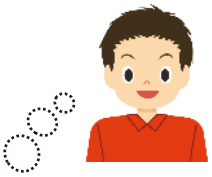
教師

川村さんは、キーワードに印を付けることで、必要なカードと不要なカードを分類することができましたね。すべてのカードを使おうとするのではなく、目的に応じて必要な情報を選び出すことが大切です。
　みなさんも、情報を整理することができましたね。では、選んだカードを関係付けて、伝えたいことを明確にしていきましょう。

【川村さんが整理している様子②】

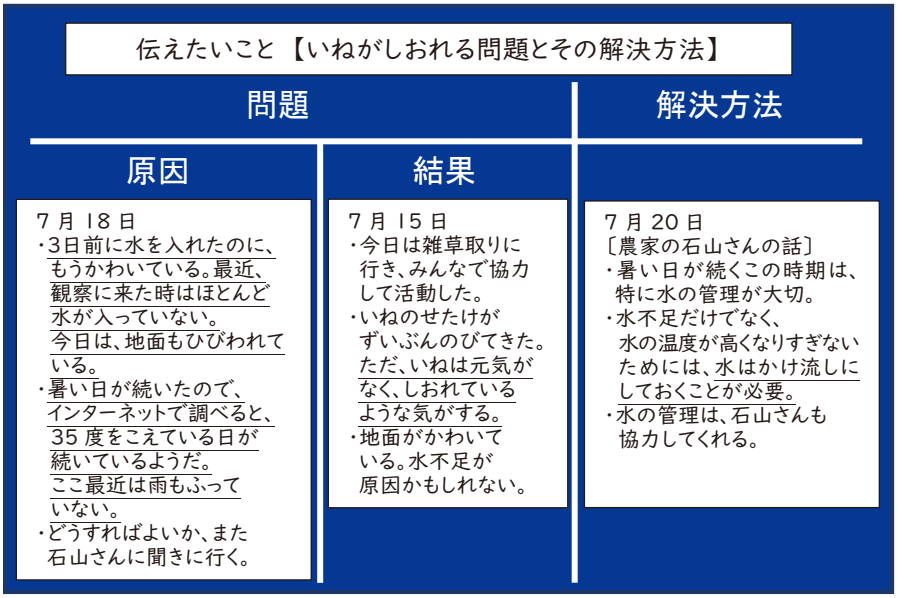


選んだカードを矢印で結び、それぞれのカードを関係付けてみました。



カード②とカード③は、雑草が増えてしまった結果と原因の関係にあるな。矢印で結んでおこう。

【中町さんが整理している様子】



日付の順番ではなく、原因と結果に着目して、カードを並べ替えてみました。

中町さん

この三つのカードを中心に書けば、伝えたいことが明確になるかな。

川村さんは、カードを矢印でつないだり、情報と情報との関係を見いだして、書き込みをしたりして、整理をしていますね。

中町さんは、情報と情報との関係を表した表を用いて、カードを動かしながら、整理をしていますね。

みなさんも、二人のように、情報と情報との関係を捉えて整理し、伝えたいことを明確にしたり、文章全体の構成を考えたりすることが大切です。

ポイント

情報を整理する場面では、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、表を用いてまとめたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにすると効果的です。また、情報を整理する際には、ICT機器を活用すると、編集したり視覚的に捉えたりしやすくなるので、情報を整理しやすくなります。

記述する場面	図表やグラフを用いるなどして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

◇　川村さんは、整理した情報を基にして自分の考えが伝わるように文章を書いています。

川村さん

情報が整理できたから、次は、問題点と解決方法に着目して、カードを並べて、文章を書いてみよう。

問題点

6月30日　**カード②**
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法　週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん　7月1日～15日

雑草の量の調査（調査カード）
・7月1日
　学校の田んぼ･･･バケツ2個分
　農家の田んぼ･･･バケツ1個分
・7月8日
　学校の田んぼ･･･バケツ3個分
　農家の田んぼ･･･バケツ1個分
・7月15日
　学校の田んぼ･･･バケツ4個分
　農家の田んぼ･･･バケツ1個分

7月20日　**カード④**
〔農家の石山さんのお話〕
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

そこで

解決方法

7月21日　**カード⑤**
〔学校でできる解決方法〕
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

「**雑草取り**」のことは、どのように雑草取りをしたのかを、詳しく書いた方がよさそうだな。

「**調査結果から～が分かりました**」と、分かったことを書くことはできそうだな。

問題点に対してどう考えたのか、どう解決しようとしたのかを書くときには、「**そこで**」を使うと分かりやすいな。

【川村さんの文章　下書き①】

(略)6月の終わりまで、**週に1回、グループの3人で雑草取り**を続けたのですが、雑草の量が増えてきました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべてみました。きかんは、7月1日から15日までです。
　調査結果から、学校の田んぼでは、雑草の量に対して、雑草取りが追いついていないこと**が分かりました**。
　そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

問題点
カード②
調査結果（調査カード）
解決方法
カード⑤

問題点と解決方法を書いたけれど、問題点について、もっと明確に書きたいな。どのように書いたらいいかな。

向井さん

調査カードに書いてある調査結果も詳しく書くといいと思うよ。その調査結果をみて、石山さんに聞きに行こうと思ったんだね。専門家に聞くことで、問題点が明確になったね。

水野さん

そうだね。カード④の石山さんのお話も入れた方がいいね。雑草が増えるとどんな問題があるのかということを書くと、問題点としての説得力が増すね。

ありがとう。調査結果を書いたり、専門家にインタビューをしたことを書いたりするなど、複数の情報を基にして書くと、考えがより明確に伝わるね。もう一度、書いてみるね。

【川村さんの文章　下書き②】

(略)6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、雑草の量が増えてきました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべてみました。きかんは、7月1日から15日までです。
　7月1日は、学校の田んぼはバケツ2個分、農家の田んぼはバケツ1個分でした。7月8日は、学校の田んぼはバケツ3個分、農家の田んぼはバケツ1個分でした。7月15日は、学校の田んぼはバケツ4個分、農家の田んぼはバケツ1個分でした。学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。
　そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

問題点
カード②
調査結果（調査カード）
カード④
石山さんの話
解決方法
カード⑤

問題点と解決方法に着目して書いてみたけど、読みづらい気がするなあ。どうしたらいいかな。

川村さんは、読む人のことを考えて、悩んでいますね。自分の考えをより分かりやすく伝えるためには、書き表し方を工夫することが大切です。
そのことを考えるための資料を用意しましたので、学級全体で考えてみましょう。

教師

【教師が提示した資料】

A：グラフが入っていない資料

例　学校で起こるけがの問題点とその解決方法

けがの治りょうのために、保健室にきた人数を調査してみました。

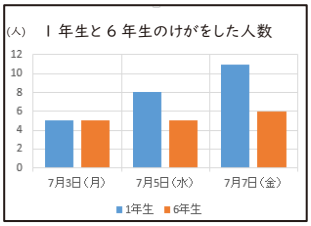
7月3日（月）は、1年生が5人、6年生が5人でした。7月5日（水）は、1年生が8人、6年生は5人でした。7月7日（金）は、1年生が11人、6年生は6人でした。6年生のけがをした人数は、ほぼ変わらないのに対して、1年生のけがをした人数が増えていることが分かります。1年生は週末につかれが出やすく、注意力が低下するかもしれないという問題点が見えてきました。そこで、週末にかけて、校庭と校舎内の見守りの人数を増やすことにしました。

B：グラフが入っている資料

例　学校で起こるけがの問題点とその解決方法

けがの治りょうのために、保健室にきた人数を調査してみました。

右のグラフを見ると、6年生のけがをした人数は、ほぼ変わらないのに対して、1年生のけがをした人数が増えていることが分かります。1年生は週末につかれが出やすく、注意力が低下するかもしれないという問題点が見えてきました。そこで、週末にかけて、校庭と校舎内の見守りの人数を増やすことにしました。



中町さん

グラフを入れると、見て分かることは書かなくてよいから、文字が少なくて、読みやすいですね。

Bの方が、人数の増減の比較がしやすく、1年生のけがが増えているという問題点が明確になりました。

Bの「**右のグラフを見ると**」という言い方も、とても大切ですね。

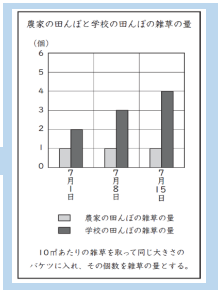
よく分かりました。図表やグラフなどを用いると、自分の考えをより分かりやすく伝えることができますね。調査結果の部分について、グラフを用いて、書き直してみようと思います。

【川村さんの文章　完成】

(略)6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、意外に雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量を比べてみました。期間は、7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。グラフから分かるように学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。

そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。



問題点
カード②
調査結果（調査カード）
カード④ 石山さんの話
解決方法 カード⑤

ポイント

○　文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるように指導することが大切です。

○　児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することが効果的です。特に、本授業アイディア例のように、複数の文章を比べることで、図表やグラフなどを用いると、自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるようにすることが効果的です。

※出典等

監修　辻井良政・佐々木卓治　編集　崎山貴弘『イネ・米・ごはん大百科　１日本の米づくりと環境』、『イネ・米・ごはん大百科　２お米ができるまで』（2020年４月　ポプラ社）などを参考にした。